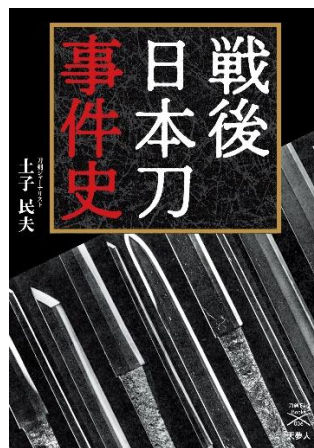


各 位

2023年3月16日
株式会社天夢人

偽造刀、偽証書、疑惑の指定、略奪、所在不明の国宝刀…
戦後日本刀史上の事件と闇に迫る『戦後日本刀事件史』発刊

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:勝峰富雄)は、2023年3月16日に、『戦後日本刀事件史』を刊行いたしました。



日本刀は、敗戦によってその所持も製作も禁止されました。その後許可されたものの、戦前までには見られなかった厳しい条件付きという状況だったのです。ゲームなどの登場で、近年は若い人たちも日本刀に触れる機会が増え人気を集めていますが、現在も日本刀を取り巻く環境にはさまざまな課題があります。

本書では戦後の刀剣界の歴史に残る事件、いわゆる偽造刀事件、赤羽刀疑惑、行方不明・略奪された国宝刀など、刀剣界を揺るがせた事象を「事件」と捉え、一つひとつ紐解いています。スキャンダルに舐めず事実を浮き彫りにし、刀剣ジャーナリストである著者が新資料を駆使して日本刀の戦後史の真実を究明しています。

これまでなかなか語られなかった知られざる戦後、近現代の刀剣史と刀剣界の裏側に迫る貴重な一冊です。日本刀が戦後辿ってきた歴史を知ること、改めて日本の歴史のもうひとつの側面をも学べるはずです。

I 章 戦後日本刀事件史

- 1 羽生事件 刀剣界の戦後はここに始まる
- 2 偽造刀事件と日刀保「認定書」問題
- 3 疑惑の指定「五口の重文大刀」
- 4 赤羽刀のその後 疑惑は払拭されたのか
- 5 行方不明の国宝・重要文化財
- 6 略奪された国宝 〈前編〉
- 7 略奪された国宝 〈後編〉
- 8 作刀再開への道
- 9 全日本刀匠会結成と日刀保たたら
- 10 刀剣界に「戦犯」はいたか
- 11 刀剣界の再生と再編
- 12 大義なきクーデター 日刀保「平成十八年問題」
〈番外編〉 サーベル登録拒否事件

II 章 日本刀の近現代

- 1 近現代の日本刀 帯刀禁止・民間武器回収と作刀の興廃を巡って
- 2 秘された戦後刀剣史 〈前編〉「赤羽刀」の全貌
〈後編〉「赤羽刀」と刀狩りの実相
- 3 日本刀復興の盛典 『栗原彦三郎全記録』余録
- 4 異端刀匠伝 栗原彦三郎昭秀・笠間一貫斎繁継・塚本一貫斎起正
- 5 希代の刀匠 柴田果 その時代と周辺
- 6 倭國一『日本刀の科学的研究』を巡って 日本刀の世界は何を学んだか

<p>◆1 羽生事件</p>  <p>事件の舞台となった鶴岡の羽生屋五郎と羽生駒子さん。</p>  <p>上羽生家の三階蔵。ここにも閣僚定文化財の記録が</p> <p>は上羽生・西羽生・下羽生の通称で呼ばれている。上羽生家は約三〇〇平方メートルの広大な敷地の南側を裏山に囲まれ、主屋建設時の敷地を以て、三階蔵をはじめとする六棟の土蔵、巨石を配した庭園などから成っている。殊に社殿は、明治期に建てられた主屋と里山を望む三階蔵であらう。かつて林家や農家、酒造業などを手広く営んでいた家柄のたすきである。</p> <p>その後、西羽生家内にいた。誰かが前もって盗み取られたので、当主の羽生源三郎は待たせていくことになった。源三郎さんの主人の祖父が上羽生家から分かれたのが当主だが、その屋敷蔵には源三郎正女がやがて羽生二門の風情が漂っている。</p> <p>事件の舞台となる蔵は土蔵の西に隣接し、扉が土間に埋め込まれていた。扉は行方不明。源三郎は、下屋が撤去され、入り口は観音扉の堂々たる扉を、明治四十三</p>	<p>1 羽生事件 刀剣界の戦後はここに始まる</p> <p>終戦から四月後の十二月三日、占領軍兵士の一團が多摩の民家を襲撃した。その蔵には源三郎の愛刀たち五口、刀一五〇両が取り残されていた。それらは強引に持ち去られ、一部は運ばれなかった。これまで詳しく知られなかった「羽生事件」の一部始終を、新発見の資料などから明らかにする。</p> <p>旧家の土蔵に疎開した百五十余振</p> <p>東京都西多摩郡日の出町。日の出町と聞いて不思議に浮かぶのは、昭和五十八年（一九八三）、当時の中曽根元首相とロナルドレーガン米大統領の会談が開かれた「日の出荘」である。中曽根さんの所有だった後継は平成十八年（二〇〇六）に町に寄贈され、今は記念館として公開されている。</p> <p>が、目撃者の証言はそこではない。昭和三十年に往來するまでは久野村と称した山村の一集落、羽生である。今や知ら</p> <p>る人もまれとなってしまったが、刀剣界で「羽生事件」と呼ばれる一件の舞台となったのは、日本美術刀剣保存協会発行の『刀剣鑑定手帳』には次のように記されている。</p> <p>「……ここに引いたような大事件が東京のお膝元で起きたのである。それは東京府下西多摩郡久野村羽生に戦中中に疎開してあった主として東京方面の刀家の蔵百五十余口が昭和二十一年おしつた十二月の十五日に埼玉県羽生に第一騎兵師団の将兵によって強襲された事件である。聞てこれによると同所内蔵の重要書物がかくしてあるという投資が、その調査のついでに何が発見されたか、持ってゆられたわけである。この百五十余口の中には因縁は「一本もなかったが重要美術品は二十余口あり、それもいずれも名刀であった。」（要するに、ルビ参照）</p> <p>ぐだんの刀箱の確信先は当地の羽生家の土蔵であることがわかったので町に問い合はせると、文化財協の方が「そ</p>
--	--

3 疑惑の指定「五口の重文大刀」

かつて重要文化財に指定された五口の刀剣を巡って、「すべて重文に値しない」「それどころか現代の二七モノ」などの批判が巻き起こった。第二の、永仁の遺事件、かたマスコミを巻きつけ、国会でも取り上げられたが、永仁銘鑑子のように指定が覆ることはなかった。歳月を経た今、あらためてその子細を検討し、今後に残る課題を考へる。

伝来不詳の上古刀指定に「異議あり」

平成三十年(二〇一八)、栃木県一日光二荒山神社が所蔵する鑓刀五振が、付属する符とともに重要文化財に指定された。指定の名称は「(宗)礼武器類」であったが、おそそ三〇年ぶりの国指定とあって、刀剣界の大きな話題となった。それにしても、平成元年以来は、あまりにも指定にわたる空白である。考えれば、現在、刀剣類の指定は文化財部「美術品」の中の工芸品(五〇作例のうち、国宝二二、重文八八五と圧倒的多数を占める)。従って、優

れた作品はほぼ指定を尽くしたと見ることもできる。

一方で、そうではない、これは二にかかつて、文化財行政を司る文化庁のトラウマによるところが大きかったと見る向きがある。その外傷は、三〇年前の重文指定にまつわるゴタゴタなのだ。問題の指定とされたのは平成元年六月、福島県会津若松市の眼科医が所有する上古刀五口である。鑓造りであり、直刀を総じて「上古刀」と呼ぶ。そのうち、比較的長寸のものが大刀(鑓か)とある。

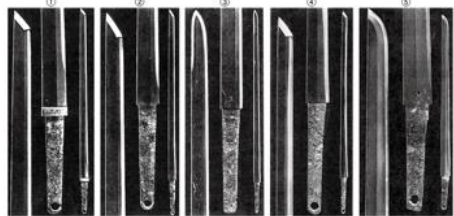
指定の審議は同三月十六日、東京国立博物館での文化財保護審議会工芸部会において行われた。有識者二名の専門委員(矢野一)のほか、本件を提案した文化庁文化財保護課美術工芸課の広井雄一主任文化財調査官ら三技官、それに文化庁が選んだ関係者(刀匠、重要無形文化財保持者)と渡邊孝子(野原美術館館長)の二名が臨時専門委員として加わっていた。

◆3 疑念の指定「五口の重文大刀」

新指定の発表は、刀剣界に驚きをもって迎え入れられた。上古刀の指定品は聖徳太子御用と伝わる七尾鑓や西子鑓(いすれもいすれ)など一四口にすぎず、しかも個人の所有では二件しかない。「上古刀がよそ五口も健全な状態で残っていたものだ」とも民間所有品が指定されるとは、やがて、さまざまな疑念が浮かんでくる。

重文に指定された大刀の特徴

No.	種別	刀身	形状	種	地味	刀文	時代	備考
①	大刀	66.0cm	切刃造り	丸棟	大板目・漆目文(シ)	直刀	奈良時代	カマズ録、聖武に手挂録孔1、鉄釘付
②	大刀	71.2cm	切刃造り	丸棟	大板目・漆目文(シ)	中直刀	奈良時代	カマズ録、やや内納、聖武に手挂録孔1、わがに反りつき、轡子曲に小丸、目釘孔2
③	大刀	78.7cm	鎌両刀造り	丸棟	大板目	直刀	平安時代	鎌は刀身のほぼ中央、カマズ録、聖武に手挂録孔1、わがに反りつき、轡子はなく、フクツク、聖武に小丸を穿ち、銅象嵌を備す
④	大刀	68.6cm	鑓造り	丸棟	板目	広直刀	平安時代	
⑤	大刀	65.5cm	鑓造り	丸棟	大板目	直刀	平安時代	



◆5 行方不明の国宝・重要文化財

No.	指定別	種別	銘	指定年	備考
41	重要文化財	太刀	無銘	明治44年	盗難届出済み(昭和35年発生)
42	重要文化財	太刀	忠告	明治44年	盗難届出済み(昭和35年発生)
43	重要文化財	太刀	遠近	大正11年	
44	重要文化財	短刀	別重	昭和15年	
45	重要文化財	短刀	相模国住人広光/延文五年八月日	昭和27年	
46	重要文化財	短刀	西二三島大明神他人不守之/真二貞治三年(鎌倉没行ノ録アリ)	明治44年	盗難届出済み(昭和23年発生)
47	重要文化財	太刀	無銘	昭和10年	
48	重要文化財	太刀	光忠	昭和33年	
49	重要文化財	太刀	助真	昭和10年	
50	重要文化財	太刀	光忠	昭和29年	
51	重要文化財	太刀	金象嵌録 元重/本阿弥(花押)	昭和28年	
52	重要文化財	太刀	兼氏	昭和28年	
53	重要文化財	短刀	兼光	昭和33年	
54	重要文化財	短刀	国光/元永二年三月廿日	昭和33年	
55	重要文化財	三點刺	兼光入魂作/元亨二正月七日阿彌和庵宣	昭和33年	
56	重要文化財	刀	無銘 一文字	昭和33年	
57	重要文化財	太刀	安吉	大正15年	
58	重要文化財	太刀	貞和三年丁亥十月日守吉作/陸州白崎八幡宮御刺懸主源兼光	昭和2年	
59	重要文化財	太刀	無銘 佐助真	昭和11年	
60	重要文化財	太刀	行真/持山金造輝頼野太刀	昭和2年	
61	重要文化財	刀	慶長九年二月吉日信濃守国彦作/伊賀夜果主源頼所留打之	昭和3年	
62	重要文化財	刺	国光	昭和31年	
63	重要文化財	短刀	無銘 貞宗(名物池田貞宗)	昭和29年	
64	重要文化財	太刀	備前国長船住兼光/元弘四年二月日	昭和16年	
65	重要文化財	太刀	兼国光	大正14年	
66	重要文化財	脇指	国彦鎌倉住人/文保二年二月日	大正14年	
67	重要文化財	太刀	波平兼安	昭和30年	
68	重要文化財	鑓太刀	無銘	大正7年	
69	重要文化財	太刀	兼国俊/永仁五年三月一日	昭和6年	
70	重要文化財	牡丹透短刀	無銘	明治36年	
71	重要文化財	太刀	兼光	明治42年	
72	重要文化財	太刀	無銘 兼弘(名物兼弘)	昭和31年	
73	重要文化財	刀	主馬兼一平安代取白云ノアリ	大正8年	
74	重要文化財	刀	無銘 別重	大正7年	

(注)その後、1・2(令和3年3月5日公表)・15・51・58(令和4年6月15日公表)は所在確認、いずれも所有者からの情報提供による。

所在不明の国指定(国宝・重要文化財)刀剣

令和2年3月23日文化庁公表

No.	指定別	種別	銘	指定年	備考
1	国宝	短刀	国光	昭和28年	
2	国宝	太刀	太平	昭和38年	
3	重要文化財	短刀	国光	昭和34年	
4	重要文化財	太刀	備前長船住兼光/元安二二年十月日	昭和28年	
5	重要文化財	刀	無銘 佐則重	昭和13年	
6	重要文化財	刀	国安	昭和17年	
7	重要文化財	太刀	兼清	昭和16年	
8	重要文化財	太刀	守次	昭和6年	
9	重要文化財	太刀	兼国光	昭和10年	
10	重要文化財	太刀	安国入西/永仁五年閏十月日	昭和16年	
11	重要文化財	太刀	一	昭和10年	
12	重要文化財	太刀	兼次	昭和15年	
13	重要文化財	刀	無銘 佐光忠/高麗鶴と金象嵌在銘	昭和16年	
14	重要文化財	太刀	兼光	昭和15年	
15	重要文化財	短刀	備中国住守次作/延文二年八月日	昭和27年	
16	重要文化財	太刀	兼光	昭和8年	
17	重要文化財	太刀	久国	昭和9年	
18	重要文化財	太刀	信房作	大正5年	
19	重要文化財	太刀	備前国長船住兼光作/正安二年二月日	昭和27年	
20	重要文化財	刀	無銘 佐長谷部国重	昭和28年	
21	重要文化財	太刀	備前国住兼次	昭和31年	
22	重要文化財	太刀	兼忠	昭和16年	
23	重要文化財	太刀	光忠	昭和11年	
24	重要文化財	刀	無銘 佐国俊	昭和16年	
25	重要文化財	太刀	助茂	昭和28年	盗難届出済み(昭和47年発生)
26	重要文化財	太刀	吉家	昭和8年	
27	重要文化財	太刀	備前長船住兼宗	昭和16年	
28	重要文化財	太刀	吉家	昭和27年	
29	重要文化財	刀	無銘 佐正宗	昭和30年	盗難届出済み(昭和57年発生)
30	重要文化財	刀	無銘 佐正宗	昭和14年	
31	重要文化財	刀	金象嵌録助光兼上光緒(花押)	昭和30年	
32	重要文化財	太刀	国行	昭和12年	
33	重要文化財	太刀	備中国住吉次作/貞和二年十月日	昭和30年	
34	重要文化財	短刀	兼国光/元徳二年以下切	昭和30年	
35	重要文化財	太刀	定吉	昭和24年	
36	重要文化財	短刀	賀州住兼光/貞治六年月日	昭和30年	
37	重要文化財	太刀	無銘 佐光忠	昭和27年	
38	重要文化財	短刀	安吉	昭和28年	
39	重要文化財	太刀	国貴	昭和14年	
40	重要文化財	太刀	備中以下切	昭和27年	

【著者プロフィール】

土子 民夫（つちこ・たみお）

1946年、茨城県行方市生まれ。編集者などを経て現在、刀剣ジャーナリスト・全国刀剣商業協同組合編集委員・（一社）日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム運営委員。著書に『日本刀21世紀への挑戦』（雄山閣・英語版“THE NEW GENERATION OF JAPANESE SWORDSMITHS”）、解説・解題に天田昭次『鉄と日本刀』（慶友社）、監修に『知識ゼロからの日本刀入門』（幻冬舎）、共編に『日本刀を二度蘇らせた男―栗原彦三郎昭秀全記録』、『遙かなる和鉄』、俵國一『古来の砂鉄製錬法』復刻解説版など。ほかに刀剣書や図録・作品集の制作多数。「文化としての日本刀」を提唱するとともに、前近代の鉄研究や日本刀の近現代史の解明に取り組んでいる。

【書誌情報】

書名：戦後日本刀事件史

仕様：A5判 160 ページ

定価：2090 円（本体 1900+税 10%）

発売日：2023 年 3 月 16 日

全国書店、オンライン書店の Amazon など で 発 売 中。

<https://amzn.to/3IIWI1g>

【株式会社天夢人】 <https://www.temjin-g.co.jp/>

2007 年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道（奇数月 21 日発売）』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当：野口

Tel: 03-6837-4680 / E-mail: info@temjin-g.co.jp

URL: <https://www.temjin-g.co.jp/>